

【南相馬市】

【1人1台端末の利活用に係る計画】

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

GIGAスクール構想で整備した1人1台端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による、主体的で対話的で深い学びの実現を目指す。

児童生徒が学習の方法やツールなどを自分で選択し、他者と協働しながら、学習者主体の学びを実現し、すべての学習の基盤となる情報活用能力や、自己調整力の育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

本市では、文部科学省によるGIGAスクール構想に基づき、令和2年度に市内全小・中学校児童生徒に学習者用1人1台端末の配備と、校内通信ネットワークの整備を完了させた。

個別最適な学びを推進するために、市内全小・中学校がそれぞれの取組みに応じて選定したAI型学習ドリルアプリを導入し、アプリを活用した学習時間や場面を設定したことで、児童生徒一人ひとりのつまづきを分析し、繰り返し問題を解くことにより、効率よく個に応じた学習が可能となっている。

協働的な学びを推進するために、市内全小・中学校に授業支援アプリを導入し、教員から児童生徒への資料データの配布や児童生徒が自分で調べる場面や自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で活用が進み、協働的な学びにつながっている。

端末の活用にあたっては、2校に1人の割合でICT支援員を配置し、機器トラブルや端末操作支援の対応をさせたことで、教職員の業務負担の軽減につながっている。

GIGA第1期における課題として、1つ目は端末故障時の対応が挙げられ、修理に出している間は予備機で対応するが、時期によっては修理から戻ってくるのに長い時間がかかり、予備機が不足することがあった。GIGA第2期では、十分な予備機を整備することで、この課題を解決していく。

2つ目は校内通信ネットワークが推奨帯域に満たないことが挙げられ、校内で一斉に端末を利用した場合にネットワークが不安定となったり、活用できない教室があり、ネットワークアセスメントを実施し、その結果を踏まえた契約帯域の見直しや機器変更等により、校内通信ネットワークの強化を図り、この課題を解決していく。

3. 1人1台端末の利活用方策

児童生徒が1人1台端末を文房具の1つとして認識し、授業や家庭学習で端末を活用できるようにするほか、様々な課題を抱える児童生徒に対する支援としても活用できるよう1人1台端末環境を維持し、効果的な利活用推進のため、つぎのとおり取り組む。

(1) 1人1台端末の積極的活用

教員が1人1台端末の活用の目的を理解し、ICT活用指導力を向上できるよう、ICT活用に関する研修を計画的・定期的を実施する。

ICT機器に造詣が深く、教育内容や教材の知識も有するICT支援員を継続配置し、各種支援や授業実践事例等の蓄積・情報共有を行うなど、支援体制を構築する。

【南相馬市】

(2)個別最適・協働的な学びの充実

児童生徒一人ひとりが自らの考えや目的、場面に合わせてICTを使い分けて効果的に活用し、課題を発見・解決する力を育成する。

また、児童生徒一人ひとりの特性にあった方法で学習を進めるため、学習ドリルアプリを活用した学習に取り組ませるとともに、教員と児童生徒同士がやりとりする場面で授業支援アプリを活用し、協働的な学びの充実化を図る。

なお、利活用の推進にあたっては、児童生徒一人ひとりが情報をうまく検索、評価、利用するスキル、情報や情報システムを理解し、活用するための思考力や判断力、情報サービスを利用する力が必要であることから、デジタル・シティズンシップ教育を推進する。

(3)学びの保障

日常の授業で端末を効果的に活用するほか、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面でICTの活用により、「誰一人取り残すことのない教育」を実施する。

また、端末が破損した場合でも、予備機の運用及び速やかな修繕を実施する体制を構築し、一人一台の端末環境を維持する。